



一般社団法人名古屋工業会会誌

こぎそ

2019 7-8 月号

【2019年度定期総会・会員総会報告】

理事長挨拶

会長挨拶

【新聞記事コーナー】

中日新聞、中部経済新聞

【研究者紹介】

技術をデザインする!

研究紹介動画のご紹介!

【ホットライン】

表彰者紹介

令和元年度 名古屋工業会給付型奨学金授与式

【情報ネットワーク】

支部報告・会員ニュース

No.490

発行 一般社団法人名古屋工業会
(名古屋工業大学全学同窓会)

〒466-0062 名古屋市昭和区狭間町4

TEL・052-731-0780

FAX・052-732-5298

E-MAIL・gokiso@lime.ocn.ne.jp

<http://www.nagoya-kogyokai.jp/>



2019年度 大阪支部総会のご案内

名古屋工業会 大阪支部 支部長 岡崎格郎 (A46)

皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、今年の名古屋工業会大阪支部総会を、次の通り開催いたします。

本年は、名工大卒業生として政治分野に進まれ、奈良県の衆議院議員を6期務め、自民党総務会長等を歴任された、田野瀬良太郎氏をお招きして、政治の話を含めたご講演をお願いしています。

皆様より、同期のご友人へのお声かけもよろしくお願いたします。

記

1. 日 時：2019年10月5日(土) 15:00～19:30
2. 場 所：「ホテルプリムローズ大阪」3階宴会場 高砂の間
大阪市中央区大手前3丁目1番43号 電話：06-6941-1231
大阪メトロ：谷町線・中央線 谷町4丁目駅下車 1A出口から徒歩5分
3. スケジュール
受付開始 14:30
第1部 総会 15:00～16:00
第2部 講演会 16:15～17:15
「政治と教育の半生」大和大学 学長 田野瀬良太郎氏 (D45)
第3部 懇親会 17:30～19:30
4. 参加費：8,000円
5. 申し込み方法：メールにて、下記の連絡先へ総会参加をご連絡下さい。
6. 申し込み締切：2019年9月30日

●単科会連絡先

科名	連絡先代表者	メールアドレス
C E 会	堀口大輔 (C59)	d-horiguchi@kcc.zaq.ne.jp
光鱈会	中瀬知幸 (A59)	nakase.tomoyuki@takenaka.co.jp
巴 会	掛田健二 (M45)	akeyan.ken@gmail.com
電影会	荻原義也 (E50)	ogihara_yoshiya@nissin.co.jp
双友会	小山征治 (W42)	qtmx47101@ares.eonet.ne.jp
緑 会	大貫雅彦 (G54)	onuki.masahiko@gmail.com
名窯会	川島 謙 (Y44)	ken-kawashima@sound.ocn.ne.jp
名晶会	田口教平 (K44)	taguchi.fkkt@hera.eonet.ne.jp
計測会	坂尾健司 (F55)	ksakao@air.zaq.jp
経友会	廣島清剛 (B50)	art11328@nitech.jp
学生会員	堀口大輔 (C59)	d-horiguchi@kcc.zaq.ne.jp
単科会連携	西岡 裕 (B50)	y.nishioka.1952@gmail.com



ホテル周辺地図

●注記：ご参加申し込みいただいた方には、別途詳細を連絡いたします。

表紙写真説明

「山の夏の日」(伊吹山)

撮影者 名古屋工業会事務局

2019年度 定期総会・会員総会 報告

一般社団法人名古屋工業会の2019年度定期総会、理事会並びに会員総会が5月18日(土)、名古屋工業大学において開催された。

定期総会には、理事長、副理事長、常務理事、理事、代議員などが出席し、内藤常務理事の司会で、加川理事長の開会挨拶の後、議長となり議事録署名人を指名した。内藤常務理事が報告事項を説明した後、平成30年度事業報告及び収支決算案、令和元年度事業計画及び収支予算案、理事の選任について審議され、各議案とも原案どうり議決され終了した。

その後の理事会には、理事、監事が出席し、内藤常務理事が開会を宣言、加川理事長が議長となり、副理事長の選任と参与の就任について審議し、副理事長に山下啓司氏、松浦明人氏、岡崎格郎氏、仁科健氏、参与に安藤正晴氏の就任が議決され終了した。

続いて、開催された会員総会では、冒頭、平成30年度にご逝去された会員物故者77名のご冥福を祈り、出席者全員で一分間の黙祷を捧げた。

会員総会は、内藤常務理事が司会となり、加川理事長の挨拶、鶴飼学長の会長挨拶の後、定

期総会並びに理事会で諮られ承認された決議事項が報告された。次に総会行事として、理事長から叙位叙勲等表彰者に記念品、会員で卒業満70・60・50・40周年を迎えられた方への顕彰、退任役員への感謝状と記念品が贈呈された。

続いて、橋本忍(ZY②)名古屋工業大学卒業生連携室長の司会で、名産研・上席研究員 オウル大学・元客員教授 大里齊氏(Y43)より「海外との共同研究とヨーロッパの磁器のルーツ」と題して特別講演をいただいた。

会場を大学会館に移して開催された懇親パーティーでは、岡崎副理事長の司会で山下副理事長の挨拶の後、仁科副理事長の乾杯の発声で始まり、名古屋工業大学学生オーケストラによる演奏の中、杯を交わしながら和やかに歓談、旧交を温めた。また、満70・60・50・40周年を迎えられました方からお一人ずつ簡単な自己紹介と近況報告があり、参加者全員が大いに盛り上がった。

最後に、恒例となった学歌「東海の邦のほまれに」を声高らかに歌い、岡崎副理事長の閉会の辞で盛会裡に閉会した。

2019年度 定期総会 次第

1. 議 事

(決議事項)

第1号議案 2018年度事業報告及び収支決算案

第2号議案 2019年度事業計画及び収支予算案

第3号議案 代議員の選任について

第4号議案 役員を選任について

(報告事項)

第5号議案 その他

2019年度 会員総会 次第

1. 理事長挨拶 一般社団法人名古屋工業会理事長

2. 会長挨拶 国立大学法人名古屋工業大学学長

3. 報告事項 定期総会での決議事項の報告

4. 行 事 イ 叙勲受章者に記念品贈呈 (2名)

ロ 名古屋工業大学卒業満70・60・50・40周年の会員への顕彰 (264名)

ハ 特別講演

講師：大里齊氏 (Y43) 名産研・上席研究員 オウル大学・元客員教授

演題：「海外との共同研究とヨーロッパの磁器のルーツ」

5. 懇親パーティー

理事長挨拶

一般社団法人名古屋工業会
理事長 加川 純一 (K49)

一般社団法人名古屋工業会 2019 年度の会員総会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。本日は全国から多くの会員の皆様にお集まりいただき 誠にありがとうございます。本日の総会は令和に元号が替わった最初の総会になります。

理事長に就任して1年、工業会活動の柱としております「大学支援」と「会員相互の親睦」を何とかこなせましたのも、会員の皆様の多大なご協力ならびに鶴飼学長はじめ大学教職員の皆様、関係各位のおかげと深く感謝しております。

さて、会員総会に先立ち、先ほど開催しました定期総会におきまして平成30年度事業報告および決算ならびに2019年度事業計画および予算案をご報告し、了承いただきましたことをここにご報告します。

決議事項の詳細は、後ほど常務理事からご説明しますが、概要について私からお話ししたいと思います。

全学同窓会組織として工業会の活動は「輝く母校と同窓の絆を願って」を旗印に活動しております。「大学支援」では名古屋工業会基金として大学に寄付し、主に学生の海外留学支援に使っていただいております。それ以外にも就職活動支援や課外活動表彰、奨学金の給付などで支援をしてきました。

「会員相互の親睦」につきましては、全国22支部の総会や支部長会議にて本部との情報交換をさせて頂きました。残念ながら夏の支部長会議は西日本豪雨で中止をいたしました。ホームカミングデーにお集まりいただき、工業会館の耐震対応などについて議論させていただきました。

また会員サービスとして今年度はHMI ホテルグループと会員優待契約を、またトヨタ産業



技術記念館の利用優待を締結させていただきましたが これからも会員サービスについて検討していきます。

会誌「ごきそ」につきましては一昨年からは冊子配布をやめてホームページでの閲覧に変えさせて頂いております。ただ、ホームページの閲覧だけでは会員の工業会引いては母校への帰属意識を引き留めておくためにも、今後はホームページ以外での工業会の活動情報を報告させていただく手段を改めて検討していきたいと考えています。

支部総会にできるだけ出席するようにしておりますが、各支部とも若手の出席が少なく活性化の必要を感じております。今では卒業生の多くが工業会員であり会員数は急増しておりますが、より多くの皆さんが工業会活動、支部活動に参加いただけるようになると思います。個人情報保護の問題からなかなか情報を開示するのが難しい状況ですが我々も懸案でありますデータベースの整備を大学と連携して進めていく所存です。

10月26日に開催します今年のホームカミングデーでは、卒業式を行っていない昭和44年卒の皆さんの卒後50年ですので、卒業記念式を開催の予定で大学本部、卒業生連携室と一緒に準備を進めて頂いております。

さて平成30年度は、財政委員会で工業会の中長期の財政の検討を、そして建物委員会で工業会館の改築、耐震化対応について検討してもらいました。財政委員会では再来年度が一般社団法人化した際の工業会残余財産を大学に寄贈する最終年度です。ここ数年は収入面では新入

学生の皆さんの多くが入学時に終身会員になって頂き以前に比べると増えておりますが、一方で大学支援、会員活動費など支出も増えており終身会員活動費の引当積立が十分ではありません。将来の活動費や経費の見直しを継続検討していきます。事務局長を大学から、卒業室連携室副室長との兼務ではありますが招聘させて頂いたのもその一環であります。また建物委員会では工業会館の改築を主に検討してまいりましたが、今後卒業生連携室との連携を深めることも全学同窓会として将来必要ですし、大学と協議を重ね、概ね学内の校友会館への移転の方向で詳細調整中であります。今年度には移転をする予定です。

移転後は大学内に位置しますので、大学へお越しの際は気軽に立ち寄って頂ければと思います。

本部事務局も工業会の永続的活動ができるよう色々検討していきたいと思っておりますので、皆様からいろいろご意見を頂ければ幸いです。

最後になりました。本日の総会の後、名工大OBの大里先生の講演、懇親パーティーを予定しておりますので、時間の許す限り親睦を深めて頂き、楽しい時間をすごしていただきたいと思っております。

本日はご出席いただき大変ありがとうございました。



会員総会風景



懇親パーティー

会員各位

令和元年5月18日

一般社団法人 名古屋工業会
理事長 加川 純一

令和元年度定期総会及び決議ご通知

令和元年5月18日(土)開催の一般社団法人名古屋工業会定期総会において、議案全てが議決されましたのでご通知申し上げます。

会長挨拶

国立大学法人名古屋工業大学長
一般社団法人名古屋工業会会長
鶴飼 裕之 (F52)

名古屋工業会会員総会の開催にあたり、母校、名古屋工業大学を代表して一言ご挨拶を申し上げます。名古屋工業会会員の皆様には、学生の修学、海外派遣事業などの教育活動、課外活動ならびに教員の研究活動などにご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。また、加川理事長、内藤常務理事をはじめ名古屋工業会役員の皆様には、常日頃より卒業生連携室、基金運営などの活動を通じて本学の事業運営を支えて頂いており、この場を借りて改めて感謝申し上げます。今後とも、母校名工大との連携をより密にしながら工業会ならびに母校の発展にご協力を賜りますよう、この場を借りましてお願い申し上げます。

さて、折角の機会ですので、この一年間を振り返って本学の動きと最近の大学改革をめぐる政策動向についてご紹介させていただきます。

教育改革の柱として平成 28 年度にスタートした新教育システムは今年で四年目を迎えます。社会、産業界からの多様な人材像の要請に応えるために設置した6年一貫の創造工学教育課程については、いよいよ来年度大学院課程に駒を進めることになり、現在、大学院課程の設置に向けて文科省に設置申請を提出しているところです。本学の教育改革と前後して、産業界からの要望を受ける形で、これからの大学における工学系教育に関する在り方が検討されておりましたが、昨年6月に、その答申を受けて制度が一部改正されました。改めてその骨子をご紹介しますと、以下の通りとなります。

- 1) 学科ごとの縦割り構造の抜本的に見直し、従来の「1つの分野を深く学ぶモデル」から脱する。同時に、社会ニーズの変化に対応し、工学以外の多様な分野を理解し展開するため、主たる専門に加え副専門分野の習得を可能とする。
- 2) 高度知識基盤社会への対応に伴う工学系大学院への進学率の増加を背景として、学士・修士の6年一貫性教育が実現できるなど教育年限を柔軟化する。
- 3) 横断的な融合教育の基盤となる専門基礎力を強化し、さらに、基礎的な情報数理教育の必須化によって先端的な情報人材の教育を強化して AI・IoT・ビッグデータ・CS 技術などに精通した



人材を育成する。

- 4) 企業型教員による実務型教育の強化およびインターンシップを積極的に推進して、産学共同教育体制を構築する。

これらの方針は、まさに、本学が教育改革として先導的に実践している内容です。こうした社会のニーズを反映し、現在申請している大学院修士課程の改組案として、専門分野毎に設置した5専攻を廃止して、一つの専攻に集結することで分野横断的な大学院教育システムを構築する予定です。さらに、実績のある工場長養成塾、名古屋市の委託を受けて本学に設置したセンターでのロボット・IoT 導入やシステムインテグレータを育成する人材養成塾など、社会人を対象とした教育プログラムも積極的に推進し、リカレント教育にも力を入れています。研究のみならず教育においても産学連携体制を充実しながら、名工大が、工学系単科大学のメリットを最大限に活かして工学系教育のフロントランナーであり続けるため、名工大総がかりで次世代の人材育成をめざしています。

いま、デジタル化、ソーシャル化、そしてグローバル化が加速するなかで、「ものづくり」と「ことづくり」を一体的に活かして新たな価値を創造するイノベーション創出が大学に要望されています。国内外の大学・研究機関、産業界、行政、金融界とのネットワークを介して「人」「知」「技術」をつなぎ、学術・技術で新しい価値を創造し世界に発信する拠点。名工大がめざすのは、まさに、時代が求める工学のイノベーションハブです。産学官金連携機構を中心に企業との組織的な連携も充実してきました。昨年開設した産業界のあらゆる AI 導入への期待に応える「NITech AI リサーチセンター」、先進的なレーザー加工や塑性加工技術、IoT の導入など生産技術で地域の製造業を支える「先進生産技術研究センター」につづき、本年4月には、「先端医用物理・情報工学研究センター」を開設しました。国内外の工学分野、医学分野の先端研究拠点と連携し、ヒトに関

する新規学術分野を確立、多面的かつ俯瞰的な視座を備えた人材を育成することを目的として、医療、公衆衛生、製品設計が抱える諸問題を解決し、国際標準化から、中京地域における産業振興まで縦断的な貢献をめざします。

一方、国際的な共同研究も活発です。研究特区である材料科学、情報科学フロンティア研究院では、常時 20 名程度の海外著名大学等からの外国人教員が所属し教育研究活動を一緒に行っています。ドイツのフリードリッヒ・アレキサンダー大学 (FAU) エアランゲン・ニュルンベルクとの間で準備していました共同事業が採択され、今年いよいよスタートします。ドクター学生を相互に派遣、両者で指導することで共同学位を授与するプログラムの実施を通して、エネルギー変換システムに関する共同研究体制を構築する事業です。日独大学間でがっぷり四つに組んで工学に関する共同教育研究体制を築くのはわが国では初めてとなります。こうした活動により、国内外の研究者間の交流をさらに促進し、国際的共同研究の展開、ひいては国際共著論文の増加につなげています。教員ひとり一人の高い研究力を活かしてチームとしてまとめ、世界へ、そして産業界へ展開する。国際連携と産学官金連携を駆動源として持続的にイノベーションを創出する研究体制を充実しています。

本学が掲げるもうひとつのビジョンであるダイバーシティ・インクルージョンキャンパスの実現に向けての取り組みも順調に進んでいます。わが国の科学技術力の向上にとって、工学分野で活躍する女性と優秀な外国人技術者は欠くことのできない人財であり、工学系大学にとってその育成は重要なミッションのひとつです。今年 4 月の学部入学生における女子学生比率は 19.4%、昨年に引き続き高い比率を維持しています。また、外国人留学生は 350 名程度 (本年 5/1 現在) と増加する傾向にあります。先の FAU との学生交流の他、EU で進む学生の海外派遣プログラム、エラスムス+を活用した学生交流などにも積極的に取り組んでおります。昨年オープンした国際学生寮 NITech Cosmo Village では外国人留学生と日本人学生が地域に溶け込んで共同生活を送っています。女性研究者の活躍推進、外国人研究者・企業型教員の積極的な登用などにも積極的に取り組むことで、本学に多様な人材を集めてキャンパスのダイバーシティ化をより一層進めています。多様な人々が共生し、互いに能力を高め合うことで大学に活力を生み、新たな価値を醸成、発信する「創発」拠点をめざしています。

最後に、本学の財政状況、昨今の大学経営にお

ける課題について述べさせていただきます。今年は、国立大学法人として第三期中期目標計画期間の 4 年目に当たります。6 年の期間における教育・研究・業務などの実績に基づいて評価を受け、それを次期中期目標計画期間における運営費交付金額に反映する仕組みです。本学は、第二期において第一期を上回る評価を頂きました。そして、第三期からは、メリハリのある評価・予算配分を導入することを目的として、大学改革に係る独自の戦略に基づいて KPI を設定し、その達成度に応じて次年度の予算が傾斜配分されるようになりました。それに加え、本年度からは、さらに国立大学全体でのメリハリをつけるために、5 項目の共通指標を設けて点数付けをし、それを予算配分に反映する仕組みが導入されました。KPI 評価を含め運営費交付金全体額の 10% に当たる額が相対的な評価による傾斜配分の対象となりました。突然の方針転換であり、まさに、後出しジャンケンです。幸い、本学はプラスの評価を受け、微増ではありますが本年度の運営費交付金にも反映されました。しかし、こうした予算配分の仕組みは益々厳しさを増すことが予想され、大学によっては運営自体が立ち行かなくなる状況に追い込まれることが懸念されています。もちろん、こうした事態においても、本学としては、不断に大学改革を推進し、高い評価を得るために努力は惜しみません。しかし、財政緊縮により今後運営費交付金が増額される可能性がないとなると、他の資金を得るための自助努力が大学にとっては必須となってきます。そのため、産学官連携研究を一層の拡充していくことはもちろんのこと、さらには、寄付金、大学の資産活用による収益化などにも注力していくことが求められます。

このような状況に国立大学は直面しております。名工大が安定した経営状況の中で発展し、これからも皆様に続く有為な学生を送り出していくためには、同窓会組織である名古屋工業会のご支援が不可欠です。経済的に困窮する学生への奨学支援、日本人学生の海外派遣事業への支援、留学生の生活支援、課外活動への支援、教員の研究活動の活性化など、様々な支援が必要です。皆様の母校への熱い思いを一つにまとめ、大学と一体となって活動するため、工業会との連携組織を見直し、新たな事業を推進していく体制を築いてまいります。

名工大が、教育と研究を両輪として真に良き大学であるために、そして、次世代を切り拓く工学系大学としての独自の進化をめざすために、教職員一丸となって努めてまいります。名古屋工業会会員の皆様におかれましても、より一層のご理解とご支援をお願いして私のご挨拶とさせていただきます。

2019年度 役員名簿

理事(9) 加川純一 K49 仁科 健 B50
 ○ 松浦明人 M47 岡崎格郎 A46
 内藤克己 A43 ○ 山下啓司 W56
 森 秀樹 D52 森川民雄 W45
 大鹿秀正 F47

監事(2) 水谷尚美 D42 ○ 川村信之 E53

相談役(6) 藤原俊朗 K31 牛込 進 Y33
 篠田陽史 M33 二杵幸夫 K39
 木越正司 C44 水嶋敏夫 M42

参与(10) 宇佐美貞夫 F40 北村健治 B40
 加藤作次 C40 河辺 彰 K40
 伊藤要蔵 B42 張田吉昭 M43
 北村 正 Es48 阿部完二 D41
 清水益文 F44 ○ 安藤正晴 B43

顧問(2) 飯田秀郎 W33 日比貞雄 W35

支部長(22)

北海道 三田村好矩 F41
 東北 齋藤文伸 A51
 東京 ○ 松浦明人 M47
 甲信越 若林俊樹 M56
 静岡 石塚基一郎 C54
 三河 中島和彦 Y58
 名古屋 ○ 仁科 健 B50
 尾張 音無通男 W41
 岐阜 ○ 大久保陽一 Es44
 北陸 ○ 竹田敏洋 B41
 三重 北川貴志 C50
 大阪 岡崎格郎 A46
 兵庫 高瀬陽太郎 C53
 岡山 野村幸宣 C54
 広島 大田一夫 C47
 山口 岸田潤三 C58
 山陰 糸賀輝穂 C51
 香川 藤川 智 E52
 徳島 後藤田啓造 M38
 愛媛 ○ 馬越陽一郎 C58
 高知 山崎健司 A54
 九州 池崎 徹 M54

代議員(88)

北海道(1) ○ 佐川正人 C53
 東北(1) 佐竹毅彦 Y57
 東京(7) 松田和繁 C55 ○ 浅井英利 E58
 ○ 三浦太郎 EC⑬ ○ 刑部道博 D54
 ○ 戸澤宏一 M55 長谷川久巳 A62
 北村明弘 K53
 甲信越(2) 若林俊樹 M56 樋口 順 C48
 静岡(2) 山之上誠 C49 ○ 向坂直久 Es60
 三河(12) 中島和彦 Y58 吉木 満 W56
 ○ 大野一成 ZK⑤ 岩田忠三 M59
 沼澤成男 M59 伊藤雅幸 D⑨
 岡本幹浩 M60 松坂勝広 D61
 水野文彦 K63 山本英二 G60
 出崎 亨 K61 ○ 安田智成 ZK⑨
 名古屋(25) ○ 河合秀樹 C59 兼岩 孝 C54
 藤田素弘 C60 ○ 杉戸厚吉 A53
 井澤知且 A51 武内博明 Mb①
 ○ 立岩佑一郎 I⑭ 富田庸公 Mb①
 ○ 加藤正史 EM⑩ ○ 伊藤哲夫 W45
 橋本 忍 ZY② 小坂井孝生 K49
 大鑄史男 F49 三宅正人 E60
 森川民雄 W45 犬塚正憲 D48
 ○ 中野達夫 G50 ○ 村瀬由明 D53
 野々山尚志 Y63 小山敏幸 K61
 守田賢一 F47 鷺見克典 B63
 石橋 豊 J56 ○ 西村良博 F48
 ○ 山口 啓 C49
 尾張(7) ○ 小久江智之 M53 服部重夫 Y43
 立石吉行 M44 伊藤美保 D44
 大竹昌志 C54 音無通男 W41
 ○ 山口初一 E56
 岐阜(7) 各務剛児 C53 田中清之 A54
 堤 喜治 M45 ○ 沢野 勝 E43
 ○ 山田孝夫 W48 笹島 康 Y39
 兼松克司 K42
 北陸(2) 黒田 茂 M47 吉岡正盛 B58
 三重(4) 黒木清篤 D52 浅野俊介 Y60
 久世憲志 C52 太田啓雅 E62
 大阪(5) 川越英二 E47 伊藤俊明 M45
 ○ 西川嘉一 G50 西岡 裕 B50
 ○ 堀口大輔 C59
 兵庫(2) ○ 佐久嶋 拓 EI⑫ ○ 植田康之 M⑩
 岡山(2) 虫明正博 K59 小倉俊彦 A58
 広島(1) 菱川躬行 E34
 山口(1) 川上為夫 W42
 山陰(1) ○ 湊口民弥 A52
 香川(1) ○ 前川浩一 SC⑩
 徳島(1) 福井一博 A46
 愛媛(1) ○ 本庄謙太 SC⑮
 高知(1) 山内 健 C53
 九州(2) 池崎 徹 M54 ○ 吉村 尚 A50

○:新任候補者

平成30年度事業報告

同窓会創立103年目の平成30年度、母校が更に耀きを増す大学として存在するために、定款に定めた事業目的である大学支援事業を的確に実施すると同時に、全学同窓会として更なる発展のための事業として基盤の整備と会員サービスの充実を図った。

具体的には、中長期計画に基づく工業会館改修計画の取りまとめ及び大学と工業会の情報提供のためのホームページの充実並びに会員証の利活用内容を拡充し、会員サービスの充実を図った。

1. 大学支援事業

(1) 国際化推進事業支援

国際的に通用する人材育成と大学の国際化を支援するため、名古屋工業大学基金に設立された名古屋工業会基金に資金を交付し、学生の海外留学・派遣に対する支援の充実を図った。

- ① 学生の海外研鑽支援—学生36名

(2) 教育研究等支援

- ① 第二部の授業科目「職業指導」を担当する非常勤講師（実務型教員）の派遣を継続して実施した。
- ② 教員の研究力向上に資するため名古屋工業大学基金に設立された名古屋工業会基金に資金を交付し、母校における研究の振興を図った。
- ③ 名古屋工業大学研究協力会に理事長が副会長として活動を支援した。
- ④ 理事長及び常務理事が名古屋工業大学基金運営委員会の委員として、母校発展のために卒業生の立場で積極的に提言を行った。
- ⑤ 名古屋工業大学が行う各種事業のための支援を行った。特に大学基金への寄付について、会誌への掲載や工業会の諸行事の機会に協力要請を行った。
- ⑥ 名古屋工業大学の定年退職教職員16名に、会員総会で感謝状と記念品を贈呈した。

(3) 学生支援

- ① 国際化推進のための海外留学等の支援を行った。（再掲）
- ② 名古屋工業会賞の贈呈
平成31年3月27日の学位記授与式において、学長より推薦のあった成績優秀な卒業生19名に対し、理事長より工業会賞として表彰状並びに記念品を贈呈した。
- ③ 経済的に支援を必要とする新入生2名に、名古屋工業大学長出席のもと理事長から名古屋工業会給付型奨学金を授与した。
- ④ 名古屋工業大学留学生後援会への援助を行った。
- ⑤ 挑戦的課外活動活性化のため、ソーラーカー部、人力飛行機研究会等に重点的に課外活動奨励金を授与し活動の活性化を図った、また学生個人の活躍によりフラッシュ演算で日本一となった学生、インカレのポートシングルスカルで入賞した学生に理事長表彰を行った。
- ⑥ 工大祭に本部及び名古屋支部より協賛金を贈呈した。
- ⑦ 平成30年3月卒業の終身会員に会員証と記念品を贈った。
- ⑧ 学生の就職支援の一環として、名工大ディナートークおよびOBの企業トップによるセミナーを開催した。
- ⑨ 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた就職支援を行った。
- ⑩ 新入生の保護者に工業会の学生支援等の説明を行うとともに、在学生の保護者に大学情報等の提供のため、会誌を送付した。

(4) その他の支援

- ① ホームカミングデー等、大学が行う各種の事業及び学生生活動に対する支援を行った。
- ② 名古屋工業大学女性卒業生で組織する鶴桜会（OG会）を支援した。
- ③ 工業会の諸行事の機会を通じた大学基金への寄付に協力した。

2. 名古屋工業会の更なる充実のための事業

(1) 財政基盤の強化のための会員増強活動

- ① OB未入会者への勧誘
 - 1) OB入会率向上のため、卒業後経過年数による終身会費割引制度を改訂した。
 - 2) 各支部において、支部総会等の行事の機会にそれぞれの方法で会員増強に努めた。
 - 3) 各単科会が実施する卒業生と学生との懇談会において、未入会者の入会勧誘を行った。
 - 4) 企業の新規役員昇格者に対し祝電を送付するとともに入会勧誘を行った。
 - 5) 本年度新規入会者（ ）は前年度実績
終身会員 76(62)名、 年度会員 13(20)名、 合計 89(82)名

② 新入学生への勧誘

新規入会者

一括納付による終身会員 926(881)名、 7年累計 6,688名

③ 在校生の勧誘

1) 在学生の保護者に対して、大学からの情報誌の送付に同調して会誌「ごきそ」及び入会勧誘文書を同封し、入会勧誘を行った。

2) 各単科会が実施する卒業生と学生との懇談会において、入会勧誘を行った。

④ 平成30年度末、対象者 65,899(64,258)名、会員 15,208(14,606) OB 会員入会率；23.1(22.7)%
会員の内訳 終身会員 12,494(11,788)名、年度会員 2,714(2,818)名

(2) 活性化活動

① 会員交流および広報活動

1) 会誌「ごきそ」を隔月に発行し、会員に対する大学情報の提供と会員間交流情報の媒体として魅力ある会誌を発刊した。閲覧は、原則ホームページによることとし、希望者には郵送を行った。

更に、5・6月号を全在校生の保護者に送付し、名古屋工業会の広報に資した。

2) 会員証による会員優待制度を充実・拡大し、ホームページ等により会員に広報・周知を行った。

3) 工業会が保有する卒業生名簿の整備について、卒業生連携室の協力を得て検討を行った。

② 支部活動

1) 各支部行事に対し理事長等が積極的に参加する等本部より協賛を行った。

2) 支部長会議及び支部連絡会を開催し、支部活動の現況と活性化等について検討した。

3) 名古屋工業大学OGによる「鶴桜会」に対して支援金を授与した。

③ 単科会との連携

1) 単科会が主催する卒業生と学生との懇談会を通じた学生の就職支援を行った。

④ 職域制度の見直し

⑤ 講演会の開催

1) 会員総会後に特別学術講演会を開催した。

講師： 田野瀬 良太郎 (第二部 D45)

演題： 『政治と教育の半生』

⑥ 記念品の贈呈

1) 平成29年度の叙位叙勲者並びに国家褒章受賞者に対し、会員総会で記念品を贈呈した。

田野瀬 良太郎 (D45) 旭日重光章

戸田 暢茂 瑞宝中綬章 名古屋工業大学名誉教授

伊藤 豪 (D41) 旭日双光章

平崎 彦治 (M48) 黄綬褒章

神前 泰幸 (Es48) 黄綬褒章

2) 卒業満70, 60, 50, 40周年に該当する会員に、記念品を贈呈した。

70年—昭和23年卒92名、60年—昭和33年卒86名 50年—昭和43年卒138名

40年—昭和53年卒85名

⑦ 工業会会館の改修・改築を含めた建て替え計画について、建物委員会を設置し、過去の耐震診断の確認、耐震化方法の整理、デベロッパーの提案の比較評価など、具体的に検討した。

3 その他の事業

(1) 中長期計画の策定 (継続検討)

① 公益目的支出期間後の収支均衡のための事業フレーム及びロードマップ策定のため、長期財政検討委員会を8回開催し、管理費の大幅削減について検討するとともに、大学との協議を行った。

② 工業会会館の改修・改築について、建物委員会を6回開催して建替計画案を作成し、支部長会議において全支部の意向確認を行った。その結果、解体も含め最小限度の投資で対応することを基本方針とすることとなった。また、工業会本部の大学内移転について大学側に検討を依頼した。

(2) 他国立大学同窓会との情報交換及び連携を図り、活動の充実へ繋げた。(継続)

(3) 付随的な事業として、オフィス及び駐車場の賃貸を行った。

平成30年度収支決算書

(平成30年4月1日から平成31年3月31日)

1. 収入の部

(単位:円)

勘定科目	決算額(A)	予算額(B)	増減(A-B)
1) 事業収入等	4,208,722	4,410,000	△ 201,278
(1) 財産利子収入	1,977,382	1,987,000	△ 9,618
(2) 会誌広告収入	415,000	323,000	92,000
(3) オフィス賃貸収入	1,315,340	1,440,000	△ 124,660
(4) 駐車場賃貸収入	451,000	660,000	△ 209,000
(5) 寄附金収入	50,000	0	50,000
2) 入会金, 会費収入	79,950,000	76,920,000	3,030,000
(1) 入会金収入	73,000	100,000	△ 27,000
(2) 年度会費収入	4,087,000	4,800,000	△ 713,000
(3) 終身会費収入	75,670,000	71,900,000	3,770,000
(4) 賛助会費収入	120,000	120,000	0
3) 雑収入	88,377	100,000	△ 11,623
(1) 雑収入	88,377	100,000	△ 11,623
4) 積立預金取崩収入	8,475,207	4,600,000	3,875,207
(1) 減価償却積立預金取崩収入	7,428,861	0	7,428,861
(2) 調査研究助成積立預金取崩収入	1,046,346	4,600,000	△ 3,553,654
5) 前期繰越収支差額	0	0	0
(1) 前期繰越収支差額	0	0	0
収入の部合計	92,722,306	86,030,000	6,692,306

注1 新入学生の入会増及び職域（年度会員）から終身会員への移行

注2 中古戸建付土地購入

2. 支出の部

(単位:円)

勘定科目	決算額(A)	予算額(B)	増減(A-B)
1) 事業費	74,530,439	75,630,000	△ 1,099,561
(1) 大学支援事業	41,950,289	43,560,000	△ 1,609,711
ア 教育研究支援	3,679,583	3,440,000	239,583
イ 学生支援	36,835,857	38,700,000	△ 1,864,143
ウ その他支援	1,434,849	1,420,000	14,849
(2) 工業会の充実のための事業	30,012,428	29,370,000	642,428
ア 会員増強活動	5,245,069	2,570,000	2,675,069
イ 広報活動	10,290,657	11,000,000	△ 709,343
ウ 支部活動	12,240,807	12,710,000	△ 469,193
エ 会員慶弔	2,120,460	2,800,000	△ 679,540
オ 講演会	115,435	290,000	△ 174,565
(3) 収益事業	2,567,722	2,700,000	△ 132,278
ア オフィス賃貸	2,150,211	2,290,000	△ 139,789
イ 駐車場賃貸	417,511	410,000	7,511
2) 管理費	10,763,006	10,400,000	363,006
(1) 総会経費	2,074,737	2,000,000	74,737
(2) 管理諸経費	8,688,269	8,400,000	288,269
3) 固定資産取得支出	7,428,861	0	7,428,861
(1) 固定資産取得支出	7,428,861	0	7,428,861
4) 次期繰越収支差額	0	0	0
(1) 次期繰越収支差額	0	0	0
支出の部合計	92,722,306	86,030,000	6,692,306

注1 挑戦的課外活動活性化経費（ソーラーカー部等）の減少

注2 学生会員としての自覚を促すため、学生会員へのクオカード送付

注3 中古戸建付土地購入

正味財産増減計算の部

(1) 増加の部

平成31年3月31日

(単位:円)

	勘定科目	決算額	備考
資産の増加	当期繰越収支差額	0	
	土地増加額	6,471,614	
	建物増加額	957,247	
	減価償却積立預金増加額	3,183,698	
	退職給与引当預金増加額	400,000	
増加額合計		11,012,559	

(2) 減少の部

	勘定科目	決算額	備考
資産の減少	前期繰越収支差額	0	
	建物償却費	2,542,634	
	建物附属設備償却費	224,287	
	什器備品償却費	416,777	
	調査研究助成積立預金減少額	1,046,346	
	減価償却積立預金減少額	7,428,861	
負債の増加	退職給与引当金増加額	400,000	
減少額合計		12,058,905	
当期正味財産増減額		△ 1,046,346	
前期繰越正味財産額		305,073,528	
期末正味財産合計額		304,027,182	

貸借対照表

平成31年3月31日

(単位:円)

科目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	894,530	720,977	173,553
預金	69,245,093	75,267,426	△ 6,022,333
流動資産合計 (A)	70,139,623	75,988,403	△ 5,848,780
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
調査研究助成積立預金	15,887,495	16,933,841	△ 1,046,346
退職給与引当預金	4,595,191	4,195,191	400,000
減価償却積立預金	59,488,238	64,690,648	△ 5,202,410
特定資産合計 (B)	79,970,924	85,819,680	△ 5,848,756
(2) その他固定資産			
土地	32,622,344	26,150,730	6,471,614
建物	28,975,911	29,604,051	△ 628,140
建物付属設備	1,337,592	1,561,879	△ 224,287
什器備品	1,433,998	1,850,775	△ 416,777
投資有価証券	94,170,421	88,321,641	5,848,780
差入保証金	150,000	150,000	0
その他固定資産合計 (C)	158,690,266	147,639,076	11,051,190
固定資産合計 (D)=(B)+(C)	238,661,190	233,458,756	5,202,434
資産合計 (E) = (A)+(D)	308,800,813	309,447,159	△ 646,346
II 負債の部			
1. 流動負債			
流動負債合計	0	0	0
2. 固定負債			
受入保証金	178,440	178,440	0
退職給与引当金	4,595,191	4,195,191	400,000
固定負債合計 (G)	4,773,631	4,373,631	400,000
負債合計 (H)	4,773,631	4,373,631	400,000
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
正味財産合計 (I)	304,027,182	305,073,528	△ 1,046,346
負債及び正味財産合計 (J) = (H)+(I)	308,800,813	309,447,159	△ 646,346

財 産 目 録

平成31年3月31日

(単位:円)

科 目	金 額	
(資産の部)		
I. 流 動 資 産		
1. 現 金	894,530	
2. 普通預金(三菱東京UFJ銀行等)	13,491,859	
3. 当座預金(ゆうちょ銀行)	14,620,762	
4. 定期預金(大和ネクスト銀行等)	41,132,472	
流動資産合計	70,139,623	70,139,623
II. 固 定 資 産		
1. 特定資産		
(1) 愛知県公債 (野村証券)	15,887,495	
(2) 国 債 (野村証券)	71,512,290	
特定資産合計	87,399,785	87,399,785
2. その他の固定資産		
(1) 土地 会館用地393.78 m ²	26,150,730	
(2) 土地 木造事務所用地95.81 m ²	6,471,614	
(3) 建物 会館鉄筋5階建延646.88 m ²	28,066,526	
(4) 建物 木造事務所99.70 m ²	909,385	
(5) 建物附属設備	1,337,592	
(6) 什器備品	1,433,998	
(7) 国 債 (野村証券)	28,487,710	
(8) 大阪府公債 (野村証券)	20,000,000	
(9) 愛知県公債 (野村証券)	8,112,505	
(10) なごやか市民債 (野村証券)	30,000,000	
(11) 金銭信託(みずほ信託銀行)	141,345	
(12) 差入保証金 (セコム・八重洲倶楽部)	150,000	
その他の固定資産合計	151,261,405	151,261,405
固定資産合計	238,661,190	238,661,190
資 産 合 計	308,800,813	308,800,813
(負債の部)		
I. 流 動 負 債		
流動負債	0	
流動負債合計	0	0
II. 固 定 負 債		
受入保証金	178,440	
退職給与引当金	4,595,191	
固定負債合計	4,773,631	4,773,631
負債合計	4,773,631	4,773,631
正味財産		304,027,182

監査報告書

一般社団法人 名古屋工業会

理事長 加川 純一 殿

平成30年4月1日から平成31年3月31日までの事業年度の理事の職務の執行、事業報告及び計算関係書類に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況等について報告を受け、必要に応じて説明を求め、貴重な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において業務及び財産の状況を調査致しました。以上の方法に基づき当該事業年度に係る事業報告書について検討致しました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、当該事業年度に係る計算関係書類（貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記及びこれらの附属明細書）について検討致しました。

2 監査の結果

(1) 事業報告書の監査結果

- 一 事業報告は、法令及び定款に従い法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類の監査結果

計算関係書類は、法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。

平成31年4月19日

一般社団法人 名古屋工業会

監事 水谷 尚美 

監事 安藤 正晴 

公益目的支出計画実施報告書に関する監査報告書

一般社団法人 名古屋工業会

理事長 加 川 純 一 殿

平成30年4月1日から平成31年3月31日までの公益目的支出計画実施報告書に関して、本監査報告を作成し、以下のとおり報告致します。

1 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、貴重な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において公益目的支出計画の実施の状況を調査致しました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検証しました。

2 監査の結果

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い法人の公益目的支出計画の実施の状況を正しく示しているものと認めます。

平成31年4月19日

一般社団法人 名古屋工業会

監事 水谷尚美 

監事 安藤正晴 

【別紙2:公益目的支出計画実施報告書】

2. 公益目的支出計画実施報告書

【平成31年度(平成30年4月1日から平成31年3月31日まで)の概要】

1. 公益目的財産額	345,398,646 円
2. 当該事業年度の公益目的収支差額(①+②-③)	270,317,285 円
①前事業年度末日の公益目的収支差額	228,504,650 円
②当該事業年度の公益目的支出の額	41,950,289 円
③当該事業年度の実施事業収入の額	137,654 円
3. 当該事業年度末日の公益目的財産残額	75,081,361 円
4. 2の欄に記載した額が計画に記載した見込み額と異なる場合、その概要及び理由 ^注	

注:詳細は、別紙様式に個別の実施事業等ごとに記載してください。

【公益目的支出計画の状況】

公益目的支出計画の 完了予定事業年度の末日	①. 計画上の完了見込み	平成33年3月31日
	②. ①より早まる見込みの場合	

	前事業年度		当該事業年度		翌事業年度
	計画	実績	計画	実績	計画
公益目的財産額	345,398,646 円				
公益目的収支差額	229,095,470 円	228,504,650 円	274,914,564 円	270,317,285 円	320,733,658 円
公益目的支出の額	45,961,060 円	43,525,534 円	45,961,060 円	41,950,289 円	45,961,060 円
実施事業収入の額	141,966 円	137,654 円	141,966 円	137,654 円	141,966 円
公益目的財産残額	116,303,176 円	116,893,996 円	70,484,082 円	75,081,361 円	24,664,988 円

※前事業年度及び当該事業年度の計画及び実績の額、翌事業年度の計画の額を記載してください。